

イネ科 エノコログサ属

アキノエノコログサ (秋の狗尾草)

Setaria faberi R.A.W.Herrm.

自生環境

道ばた、野原、畑地 など

原産地

日本在来

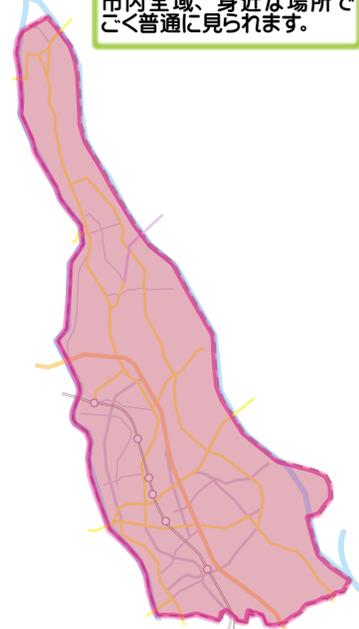
生育を脅かす要因

{今のところ特になし}

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に育つ野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域、身近な場所でごく普通に見られます。



特徴

- ☆ いわゆる「ねこじゃらし」のひとつです。図鑑などには「ねこじゃらし」の代表種はエノコログサと書かれていますが、圧倒的に数が多く、身近な場所で目につくのはアキノエノコログサです。
- ☆ 1年草で、エノコログサに比べると穂の出る時期は少し遅めで、本格的な花期はお盆以降です。エノコログサに比べると草丈は高くなり、数十 cm くらいになることもあります。また茎もよく枝分かれます。
- ☆ 花の穂はエノコログサよりも太くて長く、ゆるやかに垂れさがります。穂の剛毛は緑色ですが、ときに紫色がかかる個体も見られます。最大のちがいは小穂（穂のツブツブ）です。アキノエノコログサは、第2苞穎が少し短いため、先がむけて見えます。エノコログサは第2苞穎が上まであり、むけて見えません。

大きくなって帰ってきた

アキノエノコログサは、日本をはじめとする東アジアに広く分布します。1930年代に輸入雑穀とともにアメリカにわたり、現地で「アジア原産の外来雑草」として繁茂しています。そして今度は、輸入飼料に混入するかたちで、アメリカ産アキノエノコログサが日本に入ってきているようです。アメリカ産アキノエノコログサは日本のものよりもはるかに草丈が高く、穂の長さも2倍はあるといえます。



エノコログサよりも穂が太くて長く、ゆるやかに垂れることが多い



第2苞穎が少し短く、先がむけて見える

第2苞穎
だい ほうえい



穂の剛毛が赤紫色のものもある



穂の剛毛は枯れたあともそのまま残る



寒くなってから出てくる穂は短くなることも

冬が近づくとしばしば紅葉する



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

